

# 第74回近畿地区聾学校陸上競技大会 26年ぶり悲願の男子総合優勝



滋賀県立聾話学校  
高等部二ユース



第74回近畿地区聾学校陸上競技大会が6日(木)に大阪府大阪市東住吉区のヤママールフィールド長居で開催され、高等部男子の部で滋賀県立聾話学校が総合優勝を果たし近畿聾学校の頂点に立った。大会では200m部門で山本蒼(2年)、1500m部門で岡谷創(3年)、走り幅跳び部門で中江将太(3年)がそれぞれ自己ベスト記録を更新し1位に輝いた。また、河村咲愛(3年)は女子砲丸投げ部門で自己ベスト更新で優勝。大会連覇となった。

## ワンチームで掴んだ優勝旗

優勝の背景には物語があった。2年生ながら陸上部の主力を務める山本は100m、200mで優勝候補に挙げられ4×100mリレーでも優勝を目指していた。しかし、100m競技のスタート直前で足が痙攣し、まさかの棄権。1時間後に控えた4×100mリレーへの出場も断念することとなった。エースが出場できないことを知ったチームメイトも驚きを隠せない。そんな中、山本は「僕の代わり」に拓海くんが頑張ってくれ、と涙ながらにチームに声をかけた。その思いに中川拓海(3年)が応えた。第1走者として出場し、見事なスタート

トダッシュを決める。その想いの詰まったバトンを奥口大翔(2年)宮本悠稀(3年)中江将太(3年)とつなげ3位でフィニッシュ。チームは盛り上がりを見せた。他にも1500mで自己ベスト更新の岡谷新(3年)や100mで4位入賞の奥口、負傷する仲間を陰ながら懸命に支える青山颯太(3年)など、それぞれ個人がチームのために奮闘し勝ち取った優勝旗であった。

深紅の優勝旗を手にした山本は「怪我をしてしまったので、ごみんが頑張り続けてくれたおかげで優勝できた。チームの絆で手にできた優勝旗。仲間」に感謝したい」と語った。本大会で、仲間の大切さとチームワーク、そして、何かに一生懸命取り組む素晴らしさを知った滋賀県立聾話学校高等部の生徒。これから様々な取り組みに挑戦する姿に期待したい。



(上)優勝旗を手にする山本